心つながり　笑顔ひろがり　世界へはばたく
がっこう

学校だより

横浜市立飯田北いちょう小学校
令和４年度　２月号
令和５年１月３１日発行

救急隊の靴
救护队员的鞋
Đôi giày của Nhân Viên Cứu Thương

校長　関　宣也

早いもので新しい年が明けて、一ヶ月が過ぎようとしています。皆様方はいかがお過ごしでしょうか。先日、インターネットを見ていたら、表記の題で投稿があり、興味をもち読んでみました。

内容は次のようなものでした。

「救急車に乗ることもある消防隊員です。一般のお宅に救急出動した際、玄関で救急隊員が脱いだ靴を家族の方が綺麗に並べ直してくれる事があるのですが、そのままにしておいて下さい。担架で運び出しやすい向きで置いていますし、サイズの違う靴の履き間違えも起きる可能性があります」

（ツイッター投稿より引用）

救急隊員の靴は、手を使わず履けて、長時間屈んで作業ができる救急隊仕様の安全靴（つま先が硬くなっている靴）です。いくつかのメーカーから販売されていますが、黒色という共通点があります。そのため、一般家庭の玄関で脱ぐと、同じ形と色の靴が並ぶことになります。運びながら手を使わずに玄関で靴を履くのですが、靴が綺麗に並べ直されられていると、担架の位置によっては足をひねって履かなければならない、間違えて自分以外の靴を履くことで転倒の危険が生じる、狭い玄関だと靴の履きかえが難しい、などの弊害があります。救急隊員によっては、夜間でも靴の履き間違えがないように、靴の甲やかかとに蓄光テープを貼ってわかりやすくしている人もいるようです。

それぞれの隊員が決まった位置で担架を担当するので、そのため脱いだ靴は担架を運び出しやすい向きで玄関に脱いで置いているようです。一刻を争う状況にもかかわらず、靴が綺麗に並べ直されてタイムロスが生じることがあるようです。

このように、親切心でおこなった行為が、かえって相手に迷惑をかけることは多々あります。「〇〇した方がいいでしょうか」「〇〇しておきますね」などちょっとした一言をかけることで、トラブルをなくすことができるのではないでしょうか。そして、一言声を掛けることで、人間関係を円滑にする事ができます。挨拶の一言はその最たるものではないでしょうか。会話の大切さを改めて感じました。

そしていちばん大切なことは、お互い相手を思う気持ちをもつことであると思いました。

この学校だよりを読んで、ご家庭で話題にしていただけたら幸いです。

最後になりますが、3月の卒業証書授与式は、体育館の大きさと、感染症対策を考慮して卒業生のご家族2名と、来年度にバトンを引き継ぐために5年生のみの参列とさせていただきたく存じます。

地域の方々にもご臨席いただき、卒業生の門出を祝っていただきたいのですが、現在、感染が増加している状況を鑑み判断させていただきました。何卒、ご理解ご協力をお願いいたします。